

## 第29期第12回常任理事会議事録

日 時：1997年11月18日（火）13時35～18時00分

場 所：気象庁内気象学会事務局

出席者：松野，関口，二宮，藤部，村松，住，木田，  
城尾，竹村，塩原，永田 以上11名

その他の出席：事務局（館）

### 議 事

#### 1. 第29期第4回理事会議事録の確認

#### 2. 各委員会報告

庶務…転載許可：1件

気象研究ノート第130号（1976），p105-118，  
p114，Fig. 12，「J. Geophys. Res.」へ転載。

#### ・後援名義等使用依頼の承認：4件

(1) 海洋理工学会平成9年度秋季大会の協賛  
海洋理工学会主催，1997年11月10日，千葉  
大学けやき会館（千葉市稲毛区），協賛予  
定学協会：日本海洋学会，日本水産学会，  
応用物理学会等。

(2) 国際放射線防護学会第10回国際会議の後  
援

国際放射線防護学会主催，2000年5月  
14～19日，広島国際会議場（広島市中区），  
後援予定機関等：科学技術庁，文部省，日  
本学術会議，（社）日本原子力学会等。

(3) 第5回「アジア学術会議 -科学者フォー  
ラム-」の後援

日本学術会議主催，1998年3月11～13日，  
日本学術会議内。

(4) 第13回北方圏国際シンポジウムの後援

オホーツク海・氷海研究グループ，国際海  
洋物理科学協会海水分科会，紋別市，（社）  
北方圏センターが主催，1998年2月1～5  
日，紋別市民会館・同文化会館。

#### ・「気象情報提供システム」の改善・強化計画へ の意見・助言等の依頼 10月13日

（財）気象業務支援センターより，回答文書  
送付 10月17日。

#### ・平成9年度「公益法人調査」への回答資料提 出 文部省学術国際局長宛 10月13日

公益法人調査票及び代表者略歴書（2部），  
定款（2部），平成9年度公益法人概況調査票  
（1部）。

#### ・第三種郵便物定期監査の実施条件変更申出書

の提出 10月14日

定期監査実施頻度，年1回を3年に1回に  
改正

#### ・第32回宇宙空間科学 COSPAR 会議の組織委 員会構成と今後の日程の決定通知及び同総会 開催のための準備・運営に関する合意書の受 領 10月15日

日本学術会議宇宙空間研究連絡委員会委員  
長より。

#### ・「第1回地理・学協会連合（仮称）準備会」出 席報告の受領 10月17日

中部支部（豊橋技術科学大学工学部エコロ  
ジー工学系 北田敏廣教授）より。

設立目的は「地理」が中心，地球環境に関  
する活動を訴える場合に大きな広がり背景  
にする効果を企図，地理を対象としている団  
体でも関わり方の差が大きい。

平成10年4月の日本地理学会の前日，発足  
準備会を開催の予定。

気象学会常任理事会の判断は，議論の趣旨  
から本会は地理学を主とするのがよく，気象  
学会は構成団体としての参加は無理だが，協  
力団体としてなら対応可能。

#### ・平成10年度科学研究費補助金の公募通知 文 部省学術国際局長より 10月22日

「研究成果公开发表（B）及び研究成果公開  
発表（C）」の分野。

上記の応募要領を「教育と普及」委員会及  
び各支部宛に一部ずつ送付。

応募対象は，入場料無料などの条件あり，  
本部の「夏季大学」は該当しない。

提出期間：平成9年12月3日（水）～12月8  
日（月）。

#### ・「揚子江気団」と言う気象用語の妥当性に関す る照会 気象庁より 10月29日

気象庁は，予報用語として地名は現地の呼  
び方に従うとの方針で対処しており，平成9  
年7月の見直しで「揚子江」は「長江」と呼  
ぶことにした。これに関連し，学術用語集に  
記載されている「揚子江気団」の取り扱いに  
つき学会側に照会があった。

学会としての対応：現在，用語検討委員会

が設置されていないので、当面の対応策の案の作成を理事に依頼し、次の常任理事会で議論する。

- ・第15回「風工学シンポジウム」第2回運営委員会報告の受領 10月29日

内藤玄一委員より。

日本風工学の事務局は関係学会が持ち回りで担当しているが、この所在地登録について同運営委員会で議論となり、本学会に対し考え方の照会があったが、日本風工学会の所在地を登録するのが適当と回答することになった。

- ・学術情報センター電子図書館サービス参加申込書の提出 10月29日

1通 (11月17日現在23通)。

- ・「気象集誌」印刷業者の入札 (Vol. 76, No. 1~6の発行分) 10月31日

5社応札。UAP (株) に決定。

- ・「アジア学術交流促進事業」への参加協力依頼日本学術協力財団より 11月7日

なお、別途、第5回アジア学術会議の後援への協力依頼も受けている。

- ・Tri-P コールアウトサービスの利用契約解除通知 12月31日付で 11月10日

学会 BBS 廃止関連。

会計…1997年10月の収支報告

- ・1997年学会秋季大会決算報告書の受領 北海道支部より 11月11日

天気…Vol. 44No. 11 (1997年11月号) 掲載記事と、同 No. 12と Vol. 45 No. 1号掲載予定記事の紹介。

気象集誌…Vol. 75 No. 6 (1997年12月号) 掲載記事

- ・最近の集誌の引用件数の変化

気象研究ノート…1997年度の発行計画 (189号以降) の紹介

189号は印刷中。その他の進捗状況

講演企画…1998年春季大会会場利用計画・支出計画等

総合計画…定款改正に関する文部省との協議状況 (第4回理事会議事録参照)

11月10日、文部省学術国際局学術情報課を訪問し、定款改正に関する学会側の考え方を説明。

文部省としては、逐条検討し、1条につき2

か月程度必要だが、平成10年の学会総会には間に合うように協力するとの回答を得た。

教育と普及…第32回夏季大学の企画 テーマ検討中。

- ・学校科目「地学」関連学会連絡協議会第11回会合の報告

(1) 各学会が開催する講演会やシンポジウムなどの情報交換の仕組み創設

一般向け・教員向けの講演会やシンポジウムなど、教育・普及活動の情報を各学会間で定常的に交換する仕組みを創設し、それぞれの必要に応じて機関誌掲載などに利用することが合意された。

(2) 中学校理科第2分野 (生物・地学) の教科書のレビュー

現行教科書の問題点の検討。

国際学術交流…海外の研究集会参加者への補助 2件決定。

- ・国際学術交流委員会の行う事業

(1) 外国人研究者の招聘 問題点の検討状況。

(2) 気象集誌ネパールへの寄贈

手続き進行中。Vol. 76 (1998年) No. 1号からの予定。

電子情報…気象学会のBBS (電子掲示板)、ホームページアクセス状況。

### 3. 会員加入状況

新入会員24名を承認。会員数4,711名 (内、通常会員4,194名)。

### 4. 第30期役員選挙委員会活動の報告 (第4回理事会議事録参照)

第4回理事会の承認により、選挙管理委員会委員長により選挙管理委員が選定され、11月10日選挙委員会が開催され、今後の日程が決定された。

### 5. 1998年度事業計画・予算案の検討

### 6. 会員名簿の発行計画

春季大会の総会における会員の意見を受けて、標記の発行計画を再検討することになり、①全会員に無料配布とする、②希望者に有料販売とする、の2案の経費の見積もりが庶務・会計担当の両理事から提示された。

学会事務としては、名簿整理に必要な経費を除き、案①では会員名簿の印刷・配布のため150万円程度の費用が必要だが、案②でも販売数によっては学会側に相応の負担がかかる可能性があり、

常任理事会としては、案①の全会員に無料で配布する方向で計画を進めることになった。

なお、発行の是非そのものを含め、最終的にどの案を採用するかは、平成10年4月頃、アンケートにより会員の意志を確かめて決定することになる。

## 7. その他

### ・オゾン連絡研究連絡会代表の交代

2000年の国際オゾンシンポジウム開催に向け、代表が気象学会理事長代理関口理郎氏から東京大学小川利紘教授に交代した。

## 第15回風工学シンポジウム開催と発表論文募集

### 第15回風工学シンポジウム運営委員会

**主催：**日本学術会議災害工学研究連絡委員会

**共催：**土木学会，日本気象学会，日本建築学会，日本風工学会，電気学会，日本鋼構造協会（幹事学会）

**期日：**1998年12月2日（水），3日（木），4日（金）

**会場：**日本学術会議講堂

〒106-0032 東京都港区六本木7-22-34

TEL：03-3403-6291

### 発表論文の募集

#### 1. 課題

(a) 風の性質，(b) 環境と風，(c) 風災害，(d) 気流，風圧，風力およびその制御，(e) 構造物の応答およびその制御，(f) 耐風設計，(g) 計測方法・風洞実験法，(h) 数値解析法，(i) その他風工学に関するもの

#### 2. 応募論文原稿

- 1) フルペーパーにより査読を行う（採否の判定基準は査読付きの共催学協会の論文集と同程度とする）。
- 2) 英文での投稿も可とする。
- 3) ページ数は6ページ又は4ページを厳守のこと。
- 4) ワープロなどによってオフセット印刷用完成原稿（フルペーパー）を作成する。
- 5) 投稿者は登載が認められた場合には、論文1編あ

たり10,000円の登載料を負担する（別刷50部を無料進呈する。ただし、別途注文は受け付けない）。

6) 口答発表は一人1件に限る。ただし、複数論文の連名は可能である。

#### 3. 投稿要領・原稿用紙の請求及び提出先・問い合わせ先

〒100-0005 東京都千代田区丸ノ内3-3-1 新東京ビル

社団法人 日本鋼構造協会

第15回風工学シンポジウム運営委員会

事務局（担当 寺尾幹人）

TEL：03-3212-0875

FAX：03-3212-0878

#### 4. 原稿提出締切日

1998年5月29日（金）必着とする。締切後、ただちに査読作業に入るので遅延は一切認められない。提出は所定の原稿用紙のコピー（A4縮小判）4部とする。

#### 5. 査読・論文集刊行の日程

日程の概略は以下のとおりである。

- 1) 論文採否・査読意見の通知：1998年8月上旬
- 2) 修正後の最終印刷用オリジナル原稿（B4判）の提出：1998年9月10日（木）
- 3) 論文集の刊行：1998年11月上旬